



後期スタート

10月12日(水)に壮行会を行い、14日(金)、15日(土)に市新人戦が行われました。全校生徒が参加し、互いの想いを感じることができる壮行会は、市総体よりも3年生が部活動を引退した分だけ応援する生徒が多い、さらにあたたかい会になったような気がしました。その会で、2つの「評判」についての話をしました。1つはどが強いとか、ここには勝てないのではないかと、そんな話を聞いて、戦う前に不安にならないこと。



もう1つは、新チームとして学校の外に出る初めての公式戦で、自分たちを律し、みんなから応援してもらえるようなチーム、選手となること。疑心暗鬼になりがちなコロナ禍の状況で、実際に自分の目で確かめること、経験すること、表現できる場で自ら表現することの大切さについて伝えました。大会当日、各会場に本校生徒の様子を観に行くと、7月の県総体では、先輩についていくのに一生懸命だった2年生が、自分の不安を隠しながら先輩として頑張る姿や、1年生の、緊張しながら初めての試合に臨む姿に、さらに応援したい気持ちになりました。10月の終わり、11月にも県大会があります。また、新人大会が終わってしまった部もありますが、この市新人戦の経験を生かして、さらに活躍していくことを期待しています。

10月より、学級役員も替わり、令和4年度の後期がスタートしました。これからの6ヶ月を大切にしていけることが、今年度の生徒一人ひとりの成長、学校全体としての成長を確かなものにしていきます。日も短くなり、下校時間も早くなるので、学校での生活時間が短くなりますが、その分前期での経験を生かし、充実した時間を過ごして欲しいと思います。また、この新人戦のように、学校の代表として外に出るのは2年生が主となります。1年生は先輩となる準備をして、3年生は進路決定、卒業に向けての準備をします。そして、気がつくと、12月の生徒会選挙をはじめ、後期に取り組むことの多くが、来年度に向けての準備であることがわ



かります。来年度の自分たちの姿を想像し、後期を過ごしていくこともこころがけて欲しいと思います。

学年の違いをはじめ、それぞれの立場に変化がある後期だからこそ、互いを思い遣り、生活していくことが大切です。未来を不安がるのではなく、応援してくれる仲間を増やしながら、がんばっていきましょう。令和4年度東中の良い“結び”ができるように、素晴らしい令和5年度を迎えられるように。

歌声が聞こえ始めました

「合唱は東中の伝統」。子供たちがよく口にする言葉です。もしかしたら、私自身、その伝統をつくる頃、本校で学級担任をしていたのかもしれませんが。その頃、合唱は日常活動でした。帰りの会が始まる前、毎日10分ずつ練習をしたり、クラスで何曲か入ったCDをつくったりもしました。クラスのまとめの時期になると、何も言わなくても子供たちだけで、詞や楽譜の解釈をしたり、音取りをして、合唱をつくりあげました。コロナ禍となったこの3年間、合唱は取組のできない活動、制限のある活動になってしまいました。それでも、合唱コンクールはできなかったものの、ブロック解散会に合唱を取り入れる等の工夫をして、先輩たちが何とかここまでつないできてくれています。

最近、学校内で歌声が聞こえ始めました。11月11日(金)に3年生、17日(木)に2年生の合唱発表会が行われますが、そこに向けての練習です。もちろん、マスクをつけたまま、距離を確保する等の制限はあります。しかし、今年は学年ごとに発表会を行い、3年生の合唱を1,2年生が半分ずつ、会場で、観て、聴く予定です。そんな計画の関係で、保護者の皆さんを学校にお呼びすることができず申し訳なく思いますが、ご理解をお願いします。先輩の合唱を聴いてから、1年生も合唱に取り組みます。伝統の“継翔”です。

「こんなふうに取り組もうと思うのですが。」ある担任の先生が相談に来ました。“クラス合唱がめざすもの”を大切に、合唱に取り組んでいきたいと思っています。



授業参観

10月19日(火)、20日(水)、21日(木)、久しぶりに授業参観を実施しました。1,2年生はもちろん、3年生にとっては中学に入学して以来初めての授業参観でした。これまでと違い、感染症がまだ心配な状況を考慮して、アンケートフォームで希望日を確認して、3日間に分散しての実施でした。実施してみると、やっぱり必要な取組であることを再確認しました。

学校生活の中で、もっとも時間を費やしているのは授業です。その時間の中で、担任の先生と子供たちがどんな関わりをしているのか、保護者の皆さんに実際に観ていただくことが、何よりも学校の様子を理解していただくことにつながるように思います。子供たちの成長を願う共通な想いをもつ大人同士として、これからさらに協力していくきっかけづくりができるように思います。多くの保護者の皆さんに参加していただき、ありがたく思いました。

ふと気がついたのは、毎年新採用者のいる本校では、今回、教員になって初めての授業参観を行うという先生方が何人もいたということです。研究授業等で多くの先生方の前で何度か授業をしたことのある先生が、「先生方の前では緊張しませんが、保護者の皆さんの前では妙に緊張してしまいます。」と言っていたのが印象的でした。実際に授業を観に行くと、保護者の皆さんに見守られながら、子供たちも緊張していたり、緊張している先生を助けようと頑張っている子供たちがいたり、人と人とのふれあいを感じることでできた時間でした。授業に保護者の皆さんを巻き込んでいる先生方もいて、教室にあたたかい空気が流れていました。